



高島市長
福井 正明

新年あけましておめでとうございませす。市民の皆さまにおかれましては、健やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

さて、昨年1月の市長選挙において、2期目の市政をお預かりさせて頂いてきたからまもなく1年を迎えますが、昨年は、今後10年間のまちづくりの方向性を示します第2次高島市総合計画がスタートするなど高島の将来を方向づける重要な1年となりました。

なかでも長年の課題でありました庁舎位置問題は、市議会6月定例会において、現庁舎位置を本庁とする条例案が賛成多数で可決されたことにより、本年8月に完成します増築庁舎とあわせ、ようやく本庁機能が一か所に整うこととなります。

また、平成26年にダイオキシン類超過事案で市民の皆さまに多大なご迷惑をおかけしました環境センターは、本年2月に焼却炉を停止し、3月からは民間事業者にごみ処理を委託することとなりました。今後は平成37年度末を目途に市内で新たなごみ処理施設を建設するための準備にとりかかることとなります。



新年あけましておめでとうございませす。

市民の皆さまには、ご家族おそろいで、健やかに新年をお迎えの事とお慶び申し上げます。

昨年1月、大雪に見舞われながら選挙が行われ、総勢18人の議員が新しく選出され、早や1年が過ぎようとしています。昨年は、早や1年が過ぎようとして、9月27日に、関西電力と高浜発電所に係る「原子力安全協定」を締結し、一歩前進しましたが、今後も徹底した安全確認が必要です。

そして、風水害においては、皆さまの記憶にも新しい10月22日深夜、台風21号の襲来により強風で多くの被害が出ました。幸い人命にかかわる被害はありませんでしたが、停電による市民生活の乱れや企業活動の停止など、ライフラインの復旧に新たな問題を残した災害でした。

議案審議におきましては、庁舎位置条例が4度目で可決され、今その槌音が響いています。市民サービスの向上を図り支所の体制強化策と並行しその実現に向けて一歩進んでいます。

さて、私が日々考えるに議会の役割の第一義は、市民の皆さまの安全・安心をどのように保証するか、市民の皆さまがその安心をどのように享受していただ

市政に山積する課題に対しては、決して先送りすることなく、時には大きな決断をしながらも、将来の高島市の礎を築くための市政運営に心がけてきました。

さらに急速に進行する人口減少に歯止めをかけ、将来にわたって持続可能なまちづくりを進めていくため、昨年も新たにいくつかの企業誘致に挑戦し、11月には、道の駅しんあさひ風車村を民間資本によるグランピング施設（ホテル並みのサービスを受けられる豪華なキャンプ施設）として再整備することを公表しました。市内に点在します観光資源を周遊する拠点として、観光振興はもろろん雇用の創出、都市住民との交流など高島の活性化に大きな期待を寄せているところでもあります。

合併後14年目を迎えますが、めまぐるしく変化する社会情勢に伴い、高島市も大きな転換期を迎えています。高島の将来をしっかりと見据えながら、次なるステージへ導いていくために、本年も全力で市政運営に取り組んでいく所存です。

新年の門出にあたり、市民の皆さまのご健勝とご多幸を心から祈念申し上げます。ごあいさつとさせていただきます。

るかを決める責任が課せられていると思っております。その中には、医療の安心・老後の安心・生活の安心・災害からの安心・教育の安心・子育ての安心・若者定住など種々の要素があります。

これらの要素を議論する中で、「人口減少」という問題が、市にさまざまな問題を引き起こしています。人口減少は止まるところを知らず、10月時点で49,700人台に突入しました。現状を嘆く事より、いかにして若者が高島に定住してくれるか魅力の創造と施策の構築が喫緊の課題と捉えています。

特に、私としては、国道161号の整備促進、河川の整備、JR駅のバリアフリー化および湖西線の利便性向上など、インフラ整備の早期実現が最大の課題であると考えています。

国土強靱化に伴う事業の進展、働く場所の確保、若者が楽しく生活できる環境整備など多くの課題解決が今求められている折、4期目となる議会の活動を活発に行い、市民の皆さまの負託にお応えできるよう尽力していきます。

本年もどうぞよろしくご指導、ご支援をお願い申し上げます。ご挨拶といたします。



高島市議会議長
石田 哲